

# シリーズ “草津の頑張る企業！”

『第4回 ～六次産業化で経営の多角化を目指す～』

## 株式会社横江ファーム

(草津市北山田町2254-4 TEL:077-535-5510)



代表取締役  
横江 傳造 氏



▲“手軽に栄養豊富な野菜を”との思いから開発された「小松菜ペースト」と「かける小松菜」。同社の徹底した栽培管理やこだわりによって生産される小松菜だからこそ出せる美味しさがある。特殊製法で作られた小松菜ペーストは、過熱しても天然の鮮やかな緑色が損なわれません。

今回紹介する「株式会社横江ファーム」さんは創業60余年（法人設立から5年）、琵琶湖を望む豊かな農業環境が広がる草津市北山田町にあり、野菜の生産・卸を行っておられます。

創業以来、“消費者が求める野菜を作る”をモットーに、自社製堆肥や琵琶湖の水をふんだんに使用、低農薬栽培の徹底、こだわりの土作りなど、安心して安全な野菜の生産、供給に取り組んでおられます。

横江ファームさんの主力商品は、小松菜、水菜、青梗菜、ほうれん菜、白さい菜。他に季節野菜であるトマトやきゅうり、メロン、オクラなど。計画栽培、計画出荷を実施することで、生産および出荷量を一元管理し、年間を通じて安定した出荷量を確保するように

努めておられます。とは言え、農業は自然相手の事業。気候や天候に振り回され、計画通り進まないことも多々あるそうですが、“そこが農家の腕の見せ所”と横江社長。さまざまな創意工夫をしながら生産に取り組む毎日を送っておられます。

横江ファームさんの経営課題は販路開拓でした。これからの農業は営業力である。生産ばかりに専念しているようでは農業は今後ビジネスとして立ち行かなくなるとの思いから、商品出荷（販売）方法や商品パッケージ工程の改善、開発した自社商品のプロモーション強化などを含む販路開拓の事業計画の策定に取り組み、小規模事業者持続化補助金の採択を受けられました。

“補助金申請をきっかけとして、事業計画策定に取り組んだことは、当社の経営資源や強み、弱みを再確認する良い機会となりました。また、補助金の採択により、販路開拓の取組を大きく後押ししてもらいました。”と語られる横江社長。

横江社長最大の経営目標である「滋賀の野菜＝横江ファーム」と言われる存在を目指して、日々業務に取り組んでおられます。



▲「おいしうれしがマルシェ」in有楽町駅前出展の様子

### POINT

事業計画書を策定しませんか。事業計画書を策定することで、収益やコスト構造などが分かり、投資したい事業の優先順位や新たに取り組みたいことなど、今後につながる“気づき”が得られます。日ごろから事業計画書を策定しておくことで、補助金申請や融資申込に役立ちます。